

2018/19 年度 第 3 回理事会 議事録

日時： 2019 年 4 月 13 日土曜日 10 時 30 分－15 時 00 分
会場： 東京大学（本郷）理学部 1 号館中央棟 3 階 331 室
出席者： 日高道雄，藤田和彦，梅澤有，灘岡和夫，山野博哉，茅根創
（以上理事），野中正法，鹿熊信一郎（以上監事），久保田
賢（事務局）

議題

(1) 各理事の業務報告（資料 1）

各理事より，配布資料に従って 2018 年 11 月から 2019 年 3 月頃までの活動報告が行われた。質疑については，以下のとおりである。

学会誌担当理事

学会誌発行業務を円滑に進めるために必要な投稿数に対する質問があり，50 編以上/年なら J-STAGE の投稿システムが無料で利用できるようになるため，一つの目標であるということであったが，現状では一時期と比較して減少した投稿数を増加させることが課題である（20 編以上/年を目標）。他学会では，投稿数を増やすために理事に投稿を依頼するなど組織的に活動するケースも少なくない。Photogallery への投稿が多いことに関して，類似の他誌（Coral Reefs）の例では Photogallery のような 1 ページの論文はインパクトファクターの算定には使えず，この点だけに注目すると学会として得るものが少ないが，目標とする投稿数を達成することにつながるのであれば，その限りではないという意見があった。今後，学会誌への通常論文の投稿数を上げるために，卒論や修論のデータを掲載するよう促したり，学位論文のかけ込み投稿についても迅速に対応できる査読システムを構築し，その案内を行うことも検討が必要であるという意見が出された。

編集委員より，委嘱状の発行の希望があったということであったが，現役員の任

期中（2017/18 年度および 2018/19 年度）は、Web サイトに各委員名を記載することで対処したいとの回答があった。

広報・社会連携担当理事

保全活動奨励賞とは別に教育普及奨励賞を制定するのが良いという意見が多く、の理事から出されたが、現在の保全活動奨励賞の賞細則の記載事項と重複する点があるため、サンゴ礁学術保全委員会委員長とよく相談しながら、検討していく必要があるという意見が出された。

教育委員会で集めている教育・普及啓発コンテンツについて、著作権規定を整備していく必要がある、という意見が出された。

学会戦略・国際連携担当理事

外国会員の会費を 3 年間無料としている間のサービスコンテンツ作成について、すぐに始めるわけではないが、近いうち国際連携委員会で進めることとなった。

SIMSEA（Sustainability Initiative in the Marginal Seas of South and East Asia）の現在の日本側のコンタクトパーソンについて質問があり、山形俊男氏、植松光夫氏、灘岡和夫氏の 3 名であるとの回答があった。

サンゴ礁保全・調査安全担当理事

生態学会の要望書提出に関する本会会員による sangoML への本会の対応についての質問の投稿に対して、保全委員会から回答することとなった。その他、質問や要望等が事務局に届くことが多いことから、その対応について協議した。事務局に届いた場合にはすべて理事会 ML に流し、該当する担当理事が処理することが確認された。2019 年 1 月末頃の株式会社コーセイからの問い合わせについては、環境保全委員会で検討された最終案について理事会で確認したことから、事務局より返答することとなった。

庶務・会計担当理事

2019 年の大会日程を 11 月 8 日－11 日とすることが北海道大学から提案され、了承された。各種会議については、11 月 7 日の夕方に開催される可能性があること

も確認された。

(2) 学会誌著作権規程案（中間報告と意見収集）（資料 2）

資料に基づき、現在までの検討状況が報告された。今後の予定としては、9月の理事会での承認、10月からの施行を目指している。前提として、J-stageの利用においては、著作権を学会が管理することを規定した規則が必要であることが確認された。日本サンゴ礁学会著作権規程案について、届出と許諾の手続きを明確にすることや手続きを簡素化することに関して意見が出された。また、この規程の対象範囲に関して、何をどこまで遡及するかについて議論が行なわれ、ルール上は可能な限り遡及するという方向で進めることとなった。これらの議論に基づく修正を加えた案が次回の理事会で提案されることとなった。

(3) JCRS ブース運営について（資料 3）

2020年に開催される第14回国際サンゴ礁学会のブース出展について案内があった。前回の出展料の2倍に上る価格設定となっていることが紹介された。2019/20年度の一般会計（広報）で40万円計上することとなった。また、これと関連して川口基金より Travelers Awards として若手会員5名に対して各10万円を補助することとなった。

(4) エム・クリエイションへの業務委託終了について（資料 4）

本会のニューズレター編集や Web サイトの更新等を依頼してきたエム・クリエイションより、近いうちに業務受託を終了したいという連絡を受けたことから、今後の方策について検討した。琉球大学の COE や沖縄生物学会等のニューズレター編集等に携わっている方が候補者として挙げられ、本会の業務受託が可能かどうか、日高会長から問い合わせしてもらうこととなった。それらの件がまとまってきた段階で、広報委員長がエム・クリエイションを訪問し、引継ぎの実務的な面について話し合いを行うこととなった。

(5) 会長・代議員選挙関係（資料 5）

選挙日程，すでに配信された公示内容についての確認に加え，5月に配信予定の選挙への投票案内（案）について説明された。会務の円滑な引継ぎのために，半数改選が望ましいことから，代議員や理事の辞退予定者について明確に記載することとなった。

(6) 代議員総会申し合わせ案（資料6）

理事候補者の推薦手続き，代議員総会資料に対する質疑の受け付け，代議員総会時の原案修正要求に対する対応などの申し合わせ（案）が提案され，概ね了承された。今後は，代議員への意見聴取を経て，理事会での承認をえる予定である。

(7) 団体・賛助会員の改定（資料7-1，資料7-2）

両会員区分の会費や権利に関する現状や問題点が紹介され，原則的に両会員区分の組織に所属する個人であっても，大会発表をする場合には一般会員として登録する必要があるなどの改定を加えることが提案された（定款細則第3条第3項）。団体会員に関する改定案の表現について，不明瞭との指摘があったことから修正することとなった。この変更案に対する現団体会員や賛助会員の意見について質問があり，12月から1月にかけての意見聴取では，概ね問題なしという回答を得ているということであった。

(8) 賞委員会規程（資料8）

各賞の所掌について一元化を図ることを目的とした賞委員会規程（案）が提示された。現賞委員長希望によりサンゴ礁保全活動奨励賞の選定業務などを所掌から外す案となっていたが，実務は各委員会が行なうため，第1条のサンゴ礁保全活動奨励賞を削除せず，第1条2項に，各賞のうち論文賞とサンゴ礁保全活動奨励賞については，学会誌編集委員会，保全学術委員会に募集や選考等を委任することを明記することとなった。

(9) 大会運営について（資料9）

毎年の大会実行委員会で引き継がれてきた大会運営メモに，第21回大会（沖縄）の中村大会実行委員長が追記したものが会議資料として配布された。新規入会会員

の大会参加費免除の廃止や賛助会員の大会参加費免除については事前申し込みが必要なことなどが承認された。大会日程と公開シンポジウムについては、大会実行委員会と理事会がそれぞれ独自で決定するのではなく、両者間での協議が必要であることが確認された。大会実行委員会の負担を軽減するため、将来的には、要旨集作成を学会誌編集が分担することや学会誌として発行するなどの検討も可能であるとの意見が出された。

(10) その他

現在の学会 Web サイトの各委員会のページについて、掲載情報が古いことから、事務局より各理事を通じて委員会へ更新情報の提供を依頼することとなった。